

令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県幸田町

自治体名：愛知県幸田町

担当課名：学校教育課

電話番号：0564-63-5142

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	56.72 km ²
人口	42,072 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	1,463 人
部活動数	8 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

幸田町として、運動部も文化部の、段階的に部活動地域連携・地域移行を進めている。町内に3つの中学校があり、文化部で休日に活動している部活動は吹奏楽部（2校）、弦楽部（1校）工芸部（1校）である。

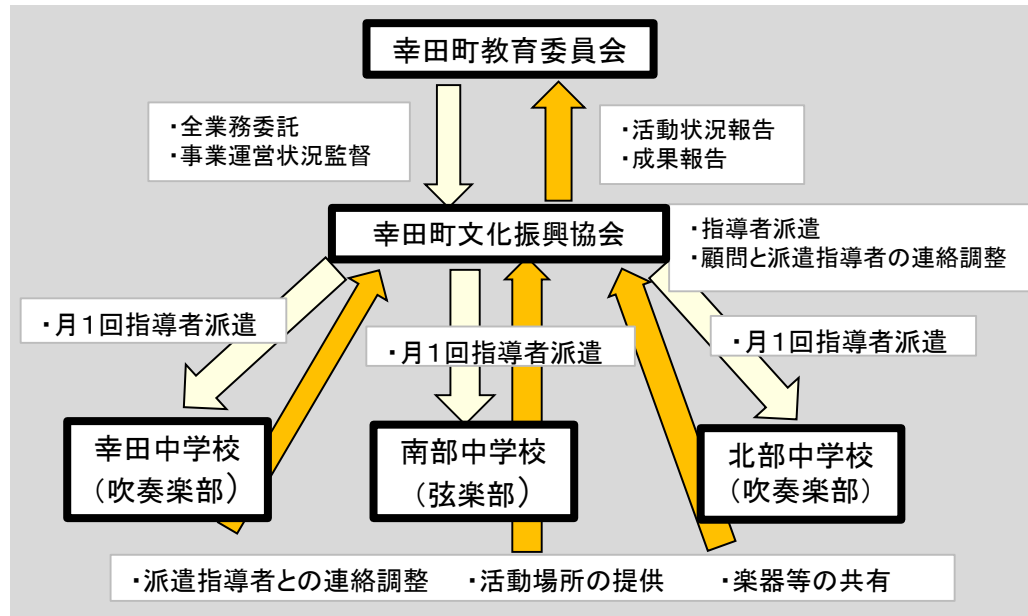
部活動地域移連携・地域移行を進めるにあたって、中学生の活動の場を保証しつつ、教職員の働き方改革の推進も大切である。そのために、教職員以外の指導者の発掘が必要になる。

吹奏楽部、弦楽部と異なる音楽部活動になるため、指導者の選定には、音楽指導に精通した指導者が必要と考える。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●教育委員会の役割

- ・文化振興協会と県事務局とのパイプ役となる
- ・実証事業を行う上で、必要となる事務作業を担う
- ・文化振興協会より活動の様子を把握、情報の共有をする
- ・幸田町の部活動地域移行・地域連携の見通しを文化振興協会へ情報提供する

年間の事業スケジュール

【4月】

文化振興協会、部活動顧問
教育委員会による打ち合わせ

【4月～2月】

3中学校の活動
（月1回程度）
幸田町民会館にて活動
（年1～2回程度）
活動状況共有
（必要に応じて）

【2月】

アンケート実施
・生徒
・保護者
・指導者

【3月】

次年度の活動に向けて
アンケートの共有・分析
・文化振興協会
・教育委員会

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		吹奏楽部・弦楽部
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	1人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加 方法
特になし	幸田文化 振興協会	吹奏楽部 弦楽部	月 1 回	9時～12時 13時～16時	中学 1 年 ～ 3 年	4月 ～ 2月	各中学校 町民会館	4人	1人	無料	参加なし

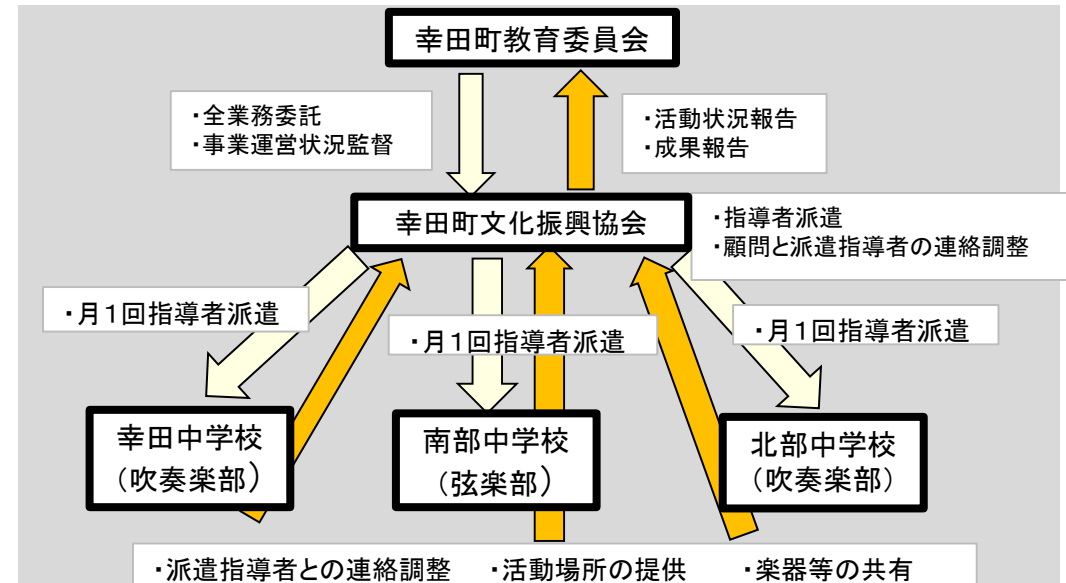
2.実証内容と成果

主な取組例

●活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽、弦楽
運営団体名	幸田町文化振興協会
期間と日数	吹奏楽・弦楽 4月～2月 月1回程度
指導者の主な属性	プロの指導者・演奏家等
活動場所	各中学校・幸田町民会館
主な移動手段	自転車・保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	無料
1人あたりの保険料	なし

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●教育委員会 指導主事 1名

役割:関係者との連携、活動に係る事務作業

●幸田文化振興協会 スタッフ1名

役割:学校との日程調整、指導者派遣・指導者への連絡

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・町内3中学校の吹奏楽部(幸田中、北部中)、弦楽部(南部中)の休日における活動に指導者派遣に関する業務を幸田町教育委員会が幸田町文化振興協会に委託する。
- ・中学校文化部活動を地域文化クラブ活動へ移行する過程の第一段階として、休日における活動に指導者を派遣し、生徒の技術向上を図ると共に、教員の時間外勤務の軽減を図ることを目的として実施した。

取組の成果

- ・地域における文化活動に成果をあげている団体と連携することにより、質の担保をした上で効率化を図ることができた。専門的な指導者、現役の音楽家(演奏家)を派遣したことで、生徒の技術向上、顧問の指導スキル向上を図ることができた。
- ・休日の部活動を、再委託先である幸田町文化振興協会から派遣された指導者に任せることで、教員の時間外勤務の軽減にもつながった。

教育委員会の具体的な動きの実績

- ・年度当初の学校と文化振興協会の打ち合わせに同席
- ・定期的に、活動状況の把握
- ・アンケート結果の分析

今後の課題と対応方針

- ・活動場所の確保(学校外活動も視野に入れながら)
- ・活動回数の増加と年間のバランス(日程調整を含む)
- ・予算の確保

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

幸田町文化振興協会が認める人材が、指導者として派遣されている。音楽活動中の人材、指導経験のある人材より選定していただいており、指導者の室については問題はなく、アンケート結果（「総括・成果の評価・今後に向けて」・「アンケート結果・参加者の声」参照）からも好評であった。

指導者人数

4名

指導者の概要

- ・県内高等学校教員として部活動指導経験有
(吹奏楽) 経験年数 44年 指導例 38年
- ・県内芸術大学卒業
(吹奏楽) 経験年数 18年 指導例 12年
- ・県内芸術大学卒業
(吹奏楽) 経験年数 10年 指導例 4年
- ・県内芸術大学卒業・オーケストラヴァイオリン奏者
(弦楽) 経験年数 37年 指導例 21年

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項 今後の課題と対応方針

地域の環境を熟知し、中学生への指導実績もある幸田町文化振興協会が、指導者とのコミュニケーションをしっかりと、学校教育課との打ち合わせや情報共有を行っているため、特にトラブルもなく活動を進めることができた。今後の課題としては、継続して指導をしていただける指導者の確保、指導者を増やすこと、指導機会を増やすこと、そしてそれに伴い活動場所の確保や予算の確保が必要となってくる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



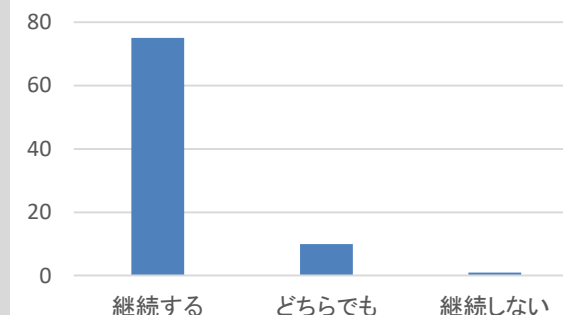
取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組の成果

参加した生徒（中１～中３）８６人を対象としたアンケートの結果、指導者が「とてもよかった」「良かった」（計８５人）、レッスン内容が「とても良かった」「よかった」（計８６名）という結果になった。また、右のグラフにあるように、今後の継続について、「継続してほしい」（７５名）生徒が多いことが分かる。プロの指導者から学ぶことで、部活動の指導とは違う技術を身に付けたり、新たな学びがあったり、とても充実した時間となったと考えられる。顧問からも、講師の先生、または幸田町文化振興協会の方へ感謝する声が多く、またプロの指導者から学べる生徒の成長を楽しみにしているという感想も聞くことができた。お互いにとって有意義な取り組みになっていると言える。

今後の継続について（生徒）



今後の課題と対応方針

「今後、地域移行をさらに進めるなら活動場所が学校外になるといいのではないか」（顧問）という意見があった。楽器の運搬、鍵の開錠や施錠、会場までの移動などを課題は多い。今後、地域の指導者と地域で活動できるようなシステムを、関係部局と連携して構築していきたい。「日程調整が大変な時もあった」（顧問）からは、学校行事、部活動として出場しているコンクールに向けての練習、日程調整も、見通しをもって考えられるようにしていきたい。

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

令和５年度、令和６年度共に受益者負担はなしで、全て町費負担で活動をしてきた。今後、指導者を増やしたり、活動回数を増やすことになった場合、予算の確保という面で、受益者負担も考えていく必要はある。

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

楽器の運搬、活動環境などを考えると、今後も各学校で活動することになってくると思う。安全面を考慮した鍵の開錠施錠については、よりよい方法、システムを、関係部局とも相談し、構築していきたい。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

目標

町内3中学校の吹奏楽部(幸田中、北部中)、弦楽部(南部中)の休日における活動に指導者を派遣し、生徒の技術向上を図ると共に、教員の時間外勤務の軽減を図る。

地域における文化活動に成果をあげている団体と連携することにより、質を担保したうえで効率化を図る。

活動の概要

幸田町教育委員会からの命を受け、再々委託業者(幸田町文化振興協会)が連絡調整役となり、部活動顧問の要望を聞き取り、それを担うことが可能な指導者を人選し派遣した。

指導者の質の保障の観点について、再々委託業者(幸田町文化振興協会)は、年間をとおして、コンサートの実施や小学校へのアウトリーチ活動など、多種多様な音楽活動を行っており、複数の音楽家とのコネクションを有している。その中から本事業の目的に合致する人材を派遣した。

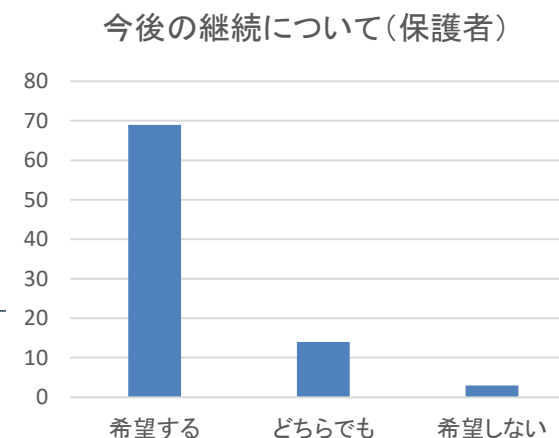
※活動の頻度・回数…各校年13回(月1回程度)

●成果の評価

・地域における文化活動に成果をあげている団体と連携することにより、質の担保したうえで、中学生への指導に対して、効率化を図ることができた。専門的なプロ指導者、現役の音楽家(演奏家)を派遣したことで、生徒の意欲向上、そして技術向上を図ることができた。

・休日の部活動を、幸田町文化振興協会から派遣された指導者に任せることで、教員の時間外勤務の軽減にもつながった。

・右のグラフから分かるように保護者にとっても有意義な活動となった。



●今後に向けて

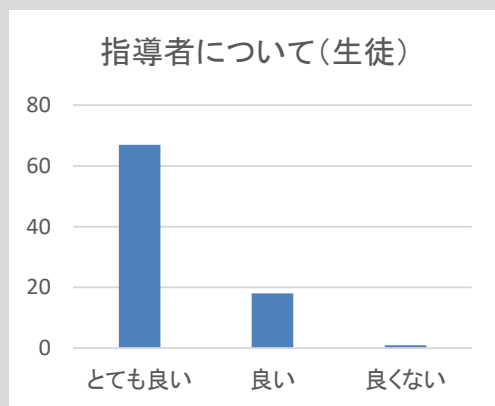
今年度のアンケート結果を集約、分析し、来年度の実証事業の在り方を再構築していく。今は、教育委員会、学校、幸田町文化振興協会の三者で進めている本活動を、いずれは幸田町文化振興協会に完全に委託できる状況を整えることが、吹奏楽部、弦楽部については地域移行につながっていくのではないかと考えている。

2.実証内容と成果②

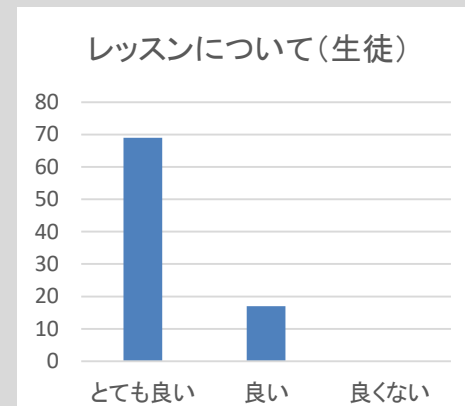
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

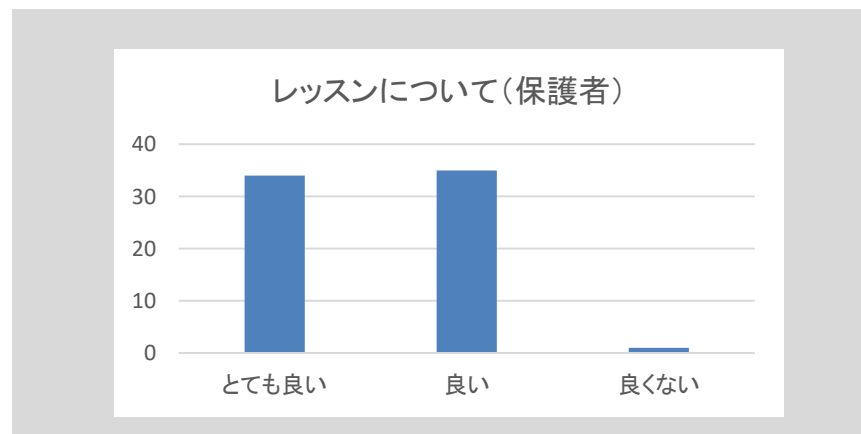
Q.講師の先生はどうでしたか？



Q.レッスンの内容はどうでしたか？



Q.レッスンの内容はどうでしたか？（お子様から聞いた内容で構いません）



●参加者の声

中学生

1年間、今までとは違った練習ができて良かったです。一緒に演奏したり、見本を見せてくれたり、専門的なことを教えてくれたり、貴重な時間でした。先生のおかげで成長できました。

中学生

私のパートには先輩がいなかったので苦労していました。そんな中、プロの先生に教えてもらうことは、とても力になりました。曲の見方、考え方が変わり、以前の自分より演奏に対する姿勢が変わりました。

保護者

部活動がなくなってしまうのではないかと心配していましたが、講師の先生が来てくださり、アドバイスが聞けるの機会が増えたようで、安心できました。専門の方に指導してもらい、先生の負担が減るなら良いと思います。

顧問

私や学校現場だけでは巡り合えないような指導者に出会え、指導を受ける生徒たちは幸せ者です。完全に地域移行するには、まだまだ課題がありますが、まずは一歩踏み出せたような気がします。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【弦楽部のパート練習（南部中）】



【弦楽部のパート練習（幸田町民会館）】



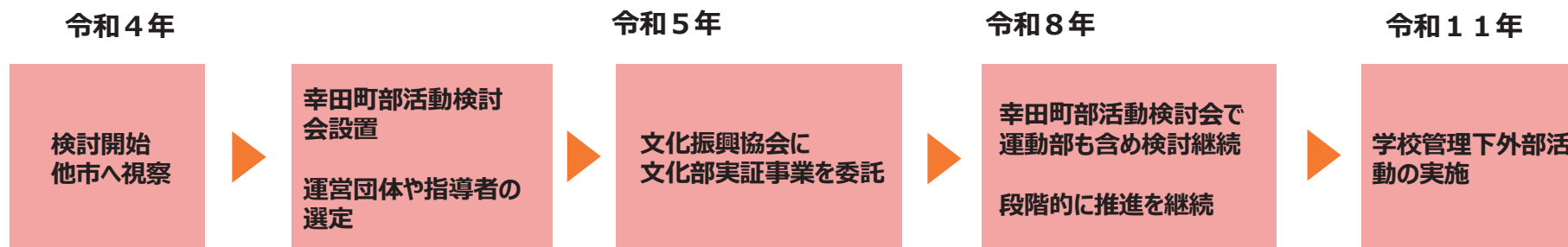
【吹奏楽部の全体練習（北部中）】



【吹奏楽部のパート練習（幸田中）】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、幸田町文化スポーツ協会、教育委員会（学校教育課・文化スポーツ課）、コーディネーター

●経過

令和 4 年度より、幸田町部活動検討会を設置し、幸田町の部活動地域連携・地域移行について検討を重ねている。令和 5 年度より幸田町幸田町文化振興協会へ委託し、文化部実証事業を実施している。運動部を含め、段階的な部活動地域連携・地域移行を推進するため幸田町部活動検討会のメンバーを増員し、多方面からの意見を集約し、令和 1 1 年度には学校管理下外部活動を目指している。

●実施にあたって生じた課題

休日の活動において、活動場所の確保、鍵の管理については課題となっている。指導者については、技術、人柄など、素晴らしい人材を文化振興協会から派遣していただいているので、ぜひ課題を克服し、予算をしっかりと確保しつつ、この活動を続けていきたい。

●今後の展開

幸田町として、運動部と文化部を含め、現在 3 0 名程度の指導者（部活動指導員）を配置できている。町内の中学生が、自分のやりたい活動ができる場の確保、安心して指導していただける人材の確保、そのための環境整備に関係部局とともに、邁進していきたい。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

幸田町立中学校部活動 地域連携・地域移行の進め方について【案】(R7.1現在)

中学校において、学校教育の一環として大きな役割を果たし、生徒は一生懸命に、教師が献身的に取り組んできた部活動の大きな変革時期となった。地域連携・地域移行を進めるためには、いくつもの課題があり、困難も予想される。国や県の動き、近隣の市町からの情報を集約し、見通しをもちながら、必要に応じて修正することも視野にいれ、【①地域連携期間】、【②地域移行期間（学校管理下内）】、【③地域移行期間（学校管理下外）】を進めていきたい。

R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
部活動指導員配置へ	平日部活動 1週間で合計4時間	休日合同部活動[夏以降] (R7は剣道部) ※休日合同練習から 中学校部活動検討会の実施方法 (PTA、スポ協参加・実施時期等)	平日部活動：勤務時間内 休日合同部活動[夏以降] (参加人数を鑑みて) 休日部活動 原則土曜日実施 日曜日…地域開放へ	休日合同部活動[夏以降] (参加人数を鑑みて) 休日部活動：月2回 地域スポーツ・文化クラブ 中学校部活動顧問 →兼職兼業可能	全ての部活動で 休日合同部活動[夏以降]	学校管理下外部活動へ (休日から開始)
【①地域連携期間：部活動指導員配置 → 全部活動男女別配置へ】 ☆部活動員指導員の確保 ☆顧問と部活動指導員と一緒に指導 ☆教員の働き方改革促進（休日） ☆幸田町合同部活動（休日）の試行 ・部活動指導員の増員（R5：16人 R6：26人） → 未配置の部活動へ配置 ・文化部実証事業へ参加（R5・R6） → 文化部の部活動へ部活動指導員配置 ・部活動指導員は学校長からの推薦で ・報酬は1時間1500円（1回3時間） ・段階的に幸田町合同部活動実施へ ・活動は休日に行う （部活動指導員の課題） ・部活動（学校）への理解 ・継続した人材の確保 →大学生、転勤等 ・予算の確保（補助金） ・スポーツ協会との連携 ・研修会の実施 →実技講習会（R5・R6）				全中大会縮小へ 陸上・バスケ・野球・バレー テニス・卓球・ソフト・剣道 (柔道・サッカー・バドミントン) ・3日間以内で開催 ・参加者数、経費30%減	・幸田町部活動コーディネーターの設置 ・部活動指導員の研修会(様々な分野で) ・活動経費の確保	〈平日部活動〉 ・活動場所 ・指導者 ・活動時間 等 →帰宅後の活動も検討 国の方針の変更、ニーズの変動に合わせて、活動の見直し、必要に応じて修正することとする。
【②地域移行期間(学校管理下内)：幸田町合同部活動設置へ】 ☆学校管理下外の活動を目指す ☆活動内容(大会)や時間の精選や制限 ☆幸田町合同部活動(休日)、地域スポーツ・文化クラブ、兼職兼業整備 ・人数の少ない剣道部から幸田町合同部活動〈合同練習からスタート〉 ・参加人数を鑑みて合同部活動を増やしていく〈活動場所分散〉 ・休日部活動を、原則土曜日(R8)、月2回(R9)とし、休日部活動のない休日に、活動地域スポーツ・文化クラブを実施可、部活動顧問兼職兼業可能(希望者)とする〈指導者人材確保〉 ・活動のための環境、鍵の管理、学校開放等の整備〈環境整備〉 文化スポーツ課(鍵の管理・部活指導員・学校開放等)との連携 外部委託方法の検討：委託先、委託方法、活動場所等の見直し 部活動指導員の人材バンク・部活動アプリ(連絡・予定・記録・集金等)…幸田町としての採用について検討していく				【③地域移行期間(学校管理下外)】 ☆幸田町合同部活動の見直し ☆休日学校管理下外活動実施 ☆平日学校管理下外活動の検討 ☆外部委託方法の検討 等		

県人材バンク設立

- ・部活動指導員が登録された人材バンク
- ・601人登録(R6.10)
- ・幸田町は部活動指導員を公募していない
- ・部活動アプリ(有料)
→採用市町有